

貸借対照表

「貸借対照表」とは、市が市民サービスを提供するために保有している財産（資産）と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを総括的に対照表とした一覧表です。左右がバランスしているため、バランスシートとも呼ばれます。

資 産	513億4千万円
所有資産の内容と金額です。行政サービスの提供能力を表しています。	
(内訳)	
1, 公共資産	429億4千万円
① 有形固定資産	423億8千万円
土地や建物等の不動産、公用車等行政サービスを提供している資産	
② 売却可能資産	5億6千万円
有形固定資産のうち、遊休地など売却が可能な資産	
2, 投資等	61億4千万円
① 投資及び出資金	35億4千万円
② 貸付金、基金など	26億円
3, 流動資産	22億6千万円
① 現金預金	21億8千万円
うち歳計現金	
	7億4千万円
② 未収金など（市税等）	8千万円

負債・純資産 合計	513億4千万円
負債	
159億4千万円	
借入金や将来の職員の退職金など、将来世代が負担する債務です。	
1, 固定負債	146億6千万円
① 地方債	113億9千万円
② 退職手当引当金	24億7千万円
③ その他	8億円
2, 流動負債	12億8千万円
① 翌年度償還予定地方債	10億6千万円
② 未払金など	2億2千万円
純資産	
	354億円
国・県の負担、過去または現世代が負担した金額で、資産から負債を差し引いた額です。	

貸借対照表（バランスシート）から何がわかるの？

◆社会資本形成の過去および現世代負担比率（純資産／公共資産） 82.4%

現存する社会資本（公共資産）のうち、どれだけがこれまでの世代の負担で賄われたかを示します。

◆社会資本形成の将来世代負担比率（地方債／公共資産） 29%

現存する社会資本（公共資産）のうち、どれだけが将来世代の負担で賄われるかを示します。

市民一人あたりの貸借対照表

資産	115万4千円
(うち、公共資産96万5千円)	
負債	35万9千円
純資産	79万5千円

資金収支計算書

「資金収支計算書」とは、歳計現金（＝資金）の出入りの情報を、性質の異なる3つの収支（経常的、公共資産整備、投資・財務的）に分けて示したものです。

期首資金残高	9億7千万円
当期収支	△2億3千万円
(内訳)	
経常的収支額	40億円
公共資産整備収支額	△4億8千万円
投資・財務的収支額	△37億5千万円
期末資金残高	7億4千万円

純資産変動計算書

「純資産変動計算書」とは、貸借対照表の純資産に計上されている各数値が、1年間でどのように変動したかを示したものです。

期首純資産残高	356億5千万円
当期変動高	△2億5千万円
(内訳)	
純経常行政コスト	△118億5千万円
一般財源	101億円
補助金等受入	14億5千万円
臨時損益	△0.2千万円
資産評価替えによる変動額	2千万円
無償受贈資産受入	4千万円
期末純資産残高	354億円

資金収支計算書から何がわかるの？

市のどのような活動に資金が必要とされ、それをどのように賄ったのかがわかります。

純資産変動計算書から何がわかるの？

今までの世代が負担してきた純資産が1年間でどう増減したかがわかります。